

小 学 校

平成22年度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

目 次

I	研究のねらい（研究主題設定の理由）	1
II	研究仮説	1
III	研究方法	1
IV	研究の内容	
	研究の概要	2
	低学年分科会	
	第2学年9月実施「昔話を楽しもう」	4
	中学年分科会	
	第4学年11月実施「俳句に親しもう」	8
	高学年分科会	
	第6学年10月実施「ぼくもわたしも清少納言」	12
	各分科会の仮説検証授業の方策	16
V	研究の成果と課題	16

研究主題

伝統的な言語文化に進んで親しむ児童の育成

I 研究のねらい（研究主題設定の理由）

中央教育審議会答申（平成20年1月）は、国語科の改善の基本方針で「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る」ことを挙げ、「我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する」ことを提言している。

このことを踏まえ、改訂された小学校学習指導要領解説国語編では、改訂の要点として「(5) 伝統的な言語文化に関する指導の重視」が示された。

また、東京都教育委員会「日本の伝統・文化理解教育推進会議報告書（平成18年12月）」では「伝統・文化について理解したり、経験したりする機会が減っている」こと、「系統的に伝統・文化を学習する機会が十分でない」ことが報告されている。

さらに、「東京都教育ビジョン（第2次）」の「重点施策27 日本の伝統・文化に対する理解の促進」には「我が国や郷土の伝統や文化、歴史についての理解を深め、尊重する態度を身に付けさせる教育を推進する必要がある」ことが示されている。

これらのことから、本部会では、児童に日本の伝統的な文化への理解を深め、尊重する態度を身に付けさせることが必要であると考えた。そのためには、児童に伝統的な言語文化に対する興味・関心をもたせ、低・中・高学年の発達段階に応じた伝統的な言語文化に「進んで親しむ態度」を育むことが、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度」を育てることにつながると考え、本研究主題を設定した。

II 研究仮説

本研究主題を実現するために、本部会では、学習過程に即した言語活動を設定した上で、単元全体の言語活動の充実を図る指導を行うことが、児童に伝統的な言語文化に興味・関心をもたせ、親しむ態度を身に付けさせることにつながると考えた。

また、アンケートによる調査研究から、児童は「伝統的な言語文化」についての認識があまり高くない傾向にあること、また、学習経験に差があることなどが分かった。このことから、児童にとって魅力ある教材との出会いが必要であると考えた。

以上のことから、研究主題に迫るために、次のような仮説を設定した。

教材との出会いを工夫し、言語活動を充実させることで、
伝統的な言語文化に進んで親しむ児童が育つであろう。

III 研究方法

1 調査研究

都内公立小学校の児童に対して、伝統的な言語文化に関するアンケート調査を行い、その分析から、児童の実態を把握した。

2 教材開発

仮説を検証するための授業を低・中・高学年の分科会ごとに行った。授業は、①教材の選定、②学習過程の工夫、③学習活動の工夫、④学習環境の工夫 を必ず行い、単元全体を見通した言語活動を設定した。授業後、授業分析を行い仮説の検証を行った。

IV 研究の内容

研究の概要

新学習指導要領のねらい

創造と継承を繰り返しながら形成されてきた伝統的な言語文化を、小学校から取り上げて親しむようにすることで、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へつないでいくことができるよう内容が構成されている。

東京都教育ビジョン（第2次）

重点施策27「日本の伝統・文化に対する理解の促進」

国際社会の中で、異なる文化や歴史に敬意を払い、様々な人々と共生していこうとする態度や能力を育成するため、我が国や郷土の伝統や文化、歴史についての理解を深め、尊重する態度を身に付けさせる教育を推進する。

東京都の児童の実態

・ 伝統・文化について理解したり、経験したりする機会が減っている。
 ・ 系統的に伝統・文化を学習する機会が十分でない。
 （東京都教育委員会「日本の伝統・文化理解教育推進会議報告書」平成18年12月）

【研究主題】

伝統的な言語文化に進んで親しむ児童の育成

【研究仮説】

教材との出会いを工夫し、言語活動を充実することで、伝統的な言語文化に進んで親しむ児童が育つであろう。

	分科会主題	仮説
低学年	昔話や神話・伝承に進んで親しむ児童の育成	児童が興味・関心をもちやすい教材と、その出会わせ方を工夫し、児童にとって必然性のある楽しい言語活動を設定すれば、昔話や神話、伝承に進んで親しむ児童が育つであろう。
中学年	易しい文語調の短歌や俳句に進んで親しむ児童の育成	児童にとって身近で親しみやすい教材とその出会わせ方を工夫し、想像を広げながら読み味わう言語活動を設定すれば、文語調の短歌や俳句に進んで親しむ児童が育つであろう。
	ことわざや慣用句、故事成語に進んで親しむ児童の育成	児童にとって身近で親しみやすい教材とその出会わせ方を工夫し、具体的な場面を想像して、表現する言語活動を設定すれば、ことわざや慣用句、故事成語に進んで親しむ児童が育つであろう。
高学年	古典に進んで親しむ児童の育成	言葉のリズムを実感し、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる教材とその出会わせ方を工夫し、自ら興味・関心をもった言葉を選び、自分の思いや考えを伝える言語活動を設定すれば、古典に進んで親しむ児童が育つであろう。

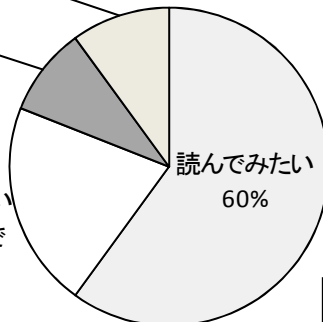
意識調査結果

伝統的な言語文化の学習経験や興味・関心を明らかにするために意識調査を行った。

[低学年 1525人 中学年 1592人 高学年 1421人] (22年9月実施)

読んでみたくない 10%
 どちらかといえば読んでみたくない 9%
 どちらかといえば読んでみたい 21%
 読んでみたい 60%

日本の昔話を読んでみたいと思いますか(低学年)



昔話を「読んでみたい」、「どちらかといえば読んでみたい」児童の合計(81%)

昔話を自分で読んだことのある児童は81%、読んでもらったことのある児童は84%であった。

昔話に親しむ素地はできていると考えられる。

【主題に迫る手だて】

学習過程の工夫

- 低・出会う→見つける→広げる
- 中・出会う→味わう →広げる
- 高・出会う→味わう →表す

学習環境の工夫

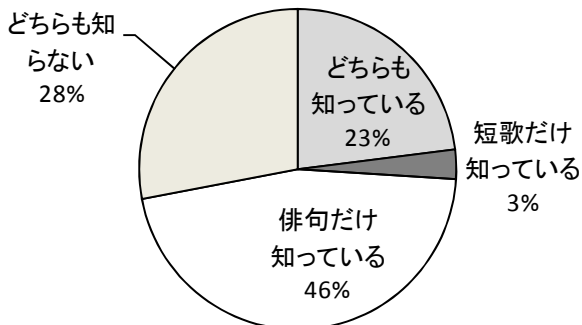
- ・視聴覚機器の活用
- ・いつでも課題への関心を深められるようにするための常時活動の場の設定
- ・地域の人材の活用

【日常化】

	教材の選定	学習活動の工夫	伝統的な言語文化に親しむ児童の姿
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話独特の語り口調や擬音語、擬態語の表現が見られる話。 ・繰り返しがあ、話の展開に起伏やリズムがある話。 ・登場人物の人物像が明確な話。 ・児童向けに易しく書き換えられてはいても、古事記、日本書紀、風土記等の表現に忠実な話。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・お話会（目的・相手意識）の設定 ・音読 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話や神話や伝承に関心を持ち、読み聞かせを楽しんで聞こうとしている。 ・昔話や神話、伝承などに対して感想を持ち、発表しようとしている。 ・昔話・神話・伝承の独特の表現に気付いている。 ・自分から進んで昔話・神話・伝承を読もうとしている。 ・昔話や神話・伝承の気に入ったところを友達と伝え合う。 ・自分のお気に入りの昔話や神話・伝承を音読や読み聞かせで伝えている。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にゆかりのある俳句や短歌 ・児童が想像しやすい情景を詠んだ俳句や短歌 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読、暗唱 ・創作 ・交流の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌や俳句の特徴に気付く。 ・七音五音を中心としたリズムを楽しみつつ音読しようとしている。 ・季節や情景、作者の思いを想像している。 ・想像したことを表現している。 ・言葉の美しい響きを感じ取りながら音読している。 ・自分で作ってみようとしている。 ・自分のお気に入りの短歌や俳句を選んで伝えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中で使いやすいことわざや慣用語、故事成語 	<ul style="list-style-type: none"> ・集め、調べる ・例文作り ・交流の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びを楽しもうとしている。 ・身の回りの言語生活から集めようとしている。 ・意味を調べ、知ろうとする。 ・先人の知恵や教訓、機知に共感している。 ・具体的な場面を想像し、表現している。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に根ざした身近な言葉が含まれる古典 ・昔の人のものの見方や考え、感じ方がよく表れている古典 ・リズムを実感しながら読むことができる古典 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読、暗唱 ・教材の視覚化 ・創作、交流の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや響きを感じて音読している。 ・時間の経過による言葉の変化に気付いている。 ・古典の内容の大体を知り、音読している。 ・昔の人のものの見方や感じ方をとらえている。 ・古典に対する自分の思いを表現している。 ・いろいろな古典作品に興味・関心をもっている。

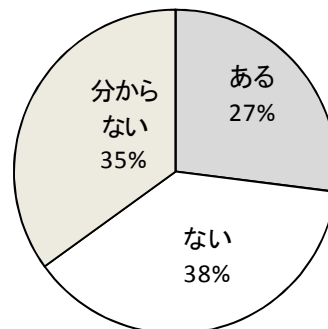
生涯にわたり進んで親しむ態度

短歌や俳句を知っていますか
(中学年)



俳句を知っている児童は69%

古典を読んだことはありますか
(高学年)



「読んだことがない」、
「分らない」児童が73%

※本部会では、古典を「古文・漢文」として調査

低学年分科会

1 分科会研究主題

「昔話や神話・伝承などに進んで親しむ児童の育成」

2 分科会仮説

〈児童が興味・関心をもちやすい教材と、その出会わせ方を工夫し、児童にとって必然性のある楽しい言語活動を設定すれば、昔話や神話、伝承に進んで親しむ児童が育つであろう。〉 ©検証学習指導計画 第1・2・8時

3 低学年分科会の実践 第2学年 9月実施

(1) 単元名 「昔話を楽しもう」

教材 「かさこじぞう」 岩崎 京子

「さんまいのおふだ」 松谷 みよ子

児童が選んだ日本の昔話

(2) 単元の目標

○日本の昔話に関心を持ち、楽しんで読む。

○日本の昔話の表現のおもしろさに気付きながら読む。

(3) 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・昔話の読み聞かせを楽しんで聞こうとしている。 ・自分のお気に入りの昔話を進んで読み聞かせしたり聞いたりしようとしている。	・好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて語ったり、音読したりしている。 ・登場人物の行動が変化していくことをおおまかに把握した上で好きな場面の様子を想像している。 ・文章の内容と自分の知識や経験などを結び付けながら、心に残った場面を選び、自分の思いや考えをまとめて発表し合っている。 ・楽しむために、昔話の本・絵本などを読んで、好きなものや興味のあるものを選んで読む。	・伝統的な言語文化に触れ、話のおもしろさや独特の語り口調・言い回しなどに気付き、親しんでいる。

(4) 研究主題に迫るための手だて

【1】教材の選定

教材とする昔話は、次の観点から選定した。

- ・小学校低学年という発達段階に見合った内容であること。
- ・言葉そのものの楽しさが味わえること。
- ・登場人物に感情移入できること。
- ・話の展開が分かりやすいこと。
- ・おもしろさや温かさを感じて読み終えることができること。

第1時で「かさこじぞう」、第2時で「さんまいのおふだ」を扱い、昔話のおもしろさを実感させる。昔の日本の暮らしぶりや人々のものの見方・考え方がよく表れており、「昔話」の世界観を味わいやすいこと、会話文以外はほぼ現代の標準語で書かれており、理解が容易であることから、「かさこじぞう」を第1時の教材として選んだ。「さんまいのおふだ」は、話の展開のおもしろさ、場面の繰り返し、地の文に見られる方言や独特の語り口調など、新たな昔話のおもしろさが児童にも分かりやすい形で出て

くる。児童が昔話のおもしろさを自分自身で見付け出す活動にふさわしいと考え、第2時で扱うこととした。

【2】学習過程の工夫

○出会う

学習の見通しをもち、意欲的に活動に取り組むことができるようにするため、第1時で近隣の幼稚園の行事と連携した活動を提示し、昔話との出会いが必然的なものとなるようにする。昔話の様々なおもしろさに気付くようにするため、趣の違う二つの話を続けて取り上げる。

○見付ける

第1時・第2時で見付けた昔話のおもしろさを分類・整理して提示することで、第3時・第4時の読書活動に意欲的に取り組み、積極的におもしろさを見付け出そうとする気持ちと呼び起こす。第5時で感想を交流させることにより、一人読みでは気付かなかったおもしろさにも興味をもてるようにする。

○広げる

第7時・第8時で教師の読み聞かせから表現の工夫を考え、第8時の「お話会」で、昔話のおもしろさを幼稚園児と一年生に読み聞かせで伝える。学習したことを使って誰かを喜ばせることができれば、今後も昔話に進んで親しむのではないかと考えた。

【3】学習活動の工夫

○読解力の個人差にかかわらず、誰もが楽しく昔話と出会うことができるようにするため、また、昔話特有の語り口調・雰囲気を楽しむ、興味・関心を高められるようにするため、教師が読み聞かせをする。

○たくさんのお話に意欲的に触れ、そのおもしろさに気付くことができるよう、自分が見付けた昔話のおもしろさを記録する「むかし話たんけんカード」を用意する。

○自分が選んだ昔話以外の作品のおもしろさも楽しめるようにするとともに、幼稚園児・一年生に昔話のおもしろさを伝えるという相手意識・目的意識を明確にもって学習に取り組めるようにするため、「お話会」を設定する。

○昔話の世界に浸ってそのおもしろさを楽しむことができるよう、おもしろいと思った部分を声に出して読んだり、動作化したりする時間を設ける。

【4】学習環境の工夫


○昔話の特徴的なおもしろさを楽しむことのできる作品を学級に多数用意し、児童がいつでも読めるようにする。

○伝統文化を意識できる環境作りをする。（「いろはうた」「十二支」等の掲示）

(5) 学習指導計画（8時間扱い）（検証授業の本時4／8）

次	時	学習活動	指導事項	☆手だて ■評価規準（評価方法）
1	1 ・ 2	○「かさこじぞう」「さんまのおふだ」を聞き、おもしろいと思ったところをカードに書きとめる。 ・読み聞かせを聞く。	・場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	☆近隣の幼稚園の行事と連携した活動を提示する。 ☆読み聞かせにより、昔話に親しませる。 ☆児童の昔話の特徴的なおもしろさを分類・整理して提示する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・あらすじを確かめる。 ・好きなところを発表する。 ・むかし話たんけんカードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。 <p>⇨仮説の検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■昔話の読み聞かせを楽しんで聞こうとしている。(観察) ■登場人物の行動が変化していくことをおおまかに把握した上で好きな場面の様子を想像している。(カード)
3 ・ 4 本 時	<p>○幼稚園児や一年生に聞かせたい昔話を探す。</p> <p>・前時までに児童が見付けた昔話のおもしろさを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ばめんがこころにのこる ・くりかえしが出てくる。 ・言い方が今とちがう。 ・出てきた人やどうぶつがすき。 ・音をあらわすことばがどくとく。 ・同じむかし話だが、本によってちがうところがある。 ・おわりの言ばがついている。 <p>・興味をもった昔話を読み、むかし話たんけんカードに、自分がおもしろいと思ったことや気付いたことを書く。</p> <p>・おもしろかったことや気付いたことを発表する。</p> <p>・教師の読み聞かせを聞き、おもしろさを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。 ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。 	<p>☆「むかし話たんけんカード」を持たせる。</p> <p>☆昔話の特徴的なおもしろさが出ている本を準備し、児童がいつでも自由に読むことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■楽しむために、昔話の本・絵本などを読んで、好きなものや興味のあるものを選んで読む。(カード) ■伝統的な言語文化に触れ、話のおもしろさや独特の語り口調・言い回しなどに気付き、親しんでいる。(カード)
				
				
2	5	<p>○好きな昔話について交流する。</p> <p>・同じ昔話を選んだ児童同士で感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。 	<p>☆感想を交流させることにより、一人読みでは気付かなかったおもしろさにも目を向けられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■文章の内容と自分の知識や経験などを結び付けながら、心に残った場面を選び、自分の思いや考えをまとめて発表し合っている。(観察)
	6 ・ 7	<p>○自分が選んだ昔話を工夫して音読する。</p> <p>・同じ昔話を選んだ児童同士</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合 	<p>☆教師の読み聞かせから、表現の工夫を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■好きな場面について、語のまとまりや言

		でグループを作る。どうしたら昔話のおもしろさが伝わるかを考えて、音読を工夫する。	うこと。 ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。	葉の響きなどに気を付けて語ったり、音読したりしている。(観察)
3	8	○「お話会」で発表を行う。 	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ・昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。 ⇨仮説の検証	■自分のお気に入りの昔話を進んで読み聞かせしたり聞いたりしようとしている。(観察) ■好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて語ったり、音読したりしている。(観察) ■伝統的な言語文化に触れ、話のおもしろさや独特の語り口調・言い回しなどに気付き、親しんでいる。(観察)

(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だてについて)

	成果	課題
教材の選定	○一つ一つの昔話の特徴的なおもしろさを分析し、意図的に児童に触れさせることが、児童の興味・関心を高めるために有効であった。アンケートでは、38人中37人の児童が、好きな昔話が増えたと答えており、「一番好きな昔話」では「はなたれこぞうさま」「さんまいのおふだ」「十二支のはじまり」など、今回の学習で初めて知った昔話を全員が挙げている。	・昔話の分析に多くの時間を要するため、教員間で情報を共有する仕組みを整える必要がある。 ・学校間・地域の図書館との協体制を強化し本を十分な冊数用意できるようにする。
学習過程の工夫	○「1年生・幼稚園児を招いてのお話会で読み聞かせを行う」単元の終末を見通した学習を行ったことで、児童が目的意識・相手意識をもって活動に取り組むことができた。「もっとおもしろいお話はないかな。」と言って昔話をたくさん読んだり、「どうしたらお話のおもしろさがちゃんと伝わるかな。」と考えると、声の大きさや読む速さ、声色、本の見せ方を工夫し、友達同士で確認したりしている姿が見られた。	・本を選ぶ場面、発表・交流の場面、読み聞かせの工夫をする場面での、個人差に配慮した指導が必要である。
学習活動の工夫	○読み聞かせが、昔話への関心を高めた。自分の力で読むことが苦手な児童にとっても、昔話を楽しみ、学習への意欲をもち続けるための大きな手立てとなった。 ○負担を感じない程度の記述量となるよう配慮した「むかし話たんけんカード」は、児童が進んで昔話を手に取る有効な手段であった。友達のカードを見て次に読む本を決める児童が見られた。「たくさん読んでカードの記録を増やしたい。」という気持ちも読む意欲につながっていた。読み集めた中から「お話会」で読み聞かせを行う昔話を選んでグループ作りを行った。	・「お話会」での読み聞かせを負担に感じる児童が少数ではあるが見られた。グループ作りの際にメンバーを工夫し、グループの中で教え合うことができる環境を整えるなどの配慮が必要である。
学習環境の工夫	○昔話の特徴的なおもしろさを味わうことのできる作品を多数用意したり、十二支などの説明を掲示したりした「むかし話のへや」を設けることで、児童が自然に昔話に触れる機会を増やすことができた。	・同じ本を複数そろえることが望ましい。

中学年分科会

1 分科会研究主題

「易しい文語調の短歌や俳句に進んで親しむ児童の育成」

2 分科会仮説

＜児童にとって身近で親しみやすい教材とその出会わせ方を工夫し、想像を広げながら読み味わう言語活動を設定すれば、文語調の短歌や俳句に進んで親しむ児童が育つであろう＞ ◎検証→学習指導計画第1・2・5・6時

3 中学年分科会の実践 第4学年 11月実施

(1) 単元名「俳句に親しもう」

教材 身近な地域に縁のある俳句 身近な地域に縁のある俳人が詠んだ俳句
小学生が詠んだ俳句（児童作品集「練馬の子ら」から）
松尾芭蕉や小林一茶の俳句

(2) 単元の目標

- リズムや文語調の響きを感じとりながら、俳句を読む。
- 俳句を読んで季節や情景、句にこめた作者の思いなどを考えたり、友達と考えを交流したりすることができる。
- 身近な題材から俳句を作ってみることで、俳句のリズムや楽しさに気付く。

(3) 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・リズムや文語調の響きを感じとりながら、楽しんで俳句を読もうとしている。 ・俳句に込められた作者の思いや情景に共感しながら読もうとしている。	・俳句を読んで、優れた表現や文語調の言葉に目を向けて、作者の気持ちや情景を思い浮かべながら読んでいる。 ・俳句を読んで考えたことを発表し合い、互いの感じ方や考え方の違いに気付いている。	・易しい文語調の俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりしている。 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。

(4) 研究主題に迫るための手だて

【1】教材の選定

- 身近な地域に縁のある俳句や小学生が作った俳句、易しい文語調の俳句を題材にする。
第1次の第1・2時では、①情景が思い浮かびやすく、作者に興味をもつことができる。②身近な地域や生活の中から題材を探し、俳句を作ってみようという気持ちをもたせることができる。③易しい文語調の言葉が使われているので、言葉の意味が理解しやすい。との観点から、身近な地域の俳句や小学生が作った俳句を取り上げた。
第2次の第6時では、「名句」と呼ばれる俳句を、音読や読書で取り上げた。
- 児童が親しみやすい作者の句を選んだり、情景が想像でき、内容が理解しやすい句を選んだりする。

上記の「地域に縁のある俳句」「小学生が作った俳句」「易しい文語調の俳句」の中でも、①季節 ②時刻 ③場（身近な生活や行事など）④情景や作者の気持ち⑤具体物（食物や動植物など）が理解できたり想像しやすかったりするものがよいと考えた。

【2】学習過程の工夫

- 出会う

第1時～第5時まで、身近な地域に縁のある俳句や小学生が作った俳句、易しい文語調の俳句を教材にし、音読や暗唱により、俳句のリズムや文語調の響きに気付いた

り、俳句の季語や五・七・五調のリズムについて理解したりする。

○味わう

第2時や第5時「俳句発表会」では、俳句について、情景や作者の気持ちを考え、友達と交流することで、互いの感じ方や考え方の違いに気付いたり、学習を深めたりする。

また、身近な地域を句会の方々と実際に歩き、俳句作りを通して、俳句のリズムや楽しさに気付かせる。

○広げる

自分の好きな俳句を選んで、音読や暗唱をしたり、実際に俳句作りをして、言葉のリズムや楽しさに気付かせる。

【3】学習活動の工夫

○導入において、身近な地域を詠んだ俳句クイズを提示し、興味をもたせて、俳句に出会わせる。


○身近な地域を詠んだ俳句や友達が作った俳句を読み、作者の思いや季節・情景などについて友達と感想や考えを交流させる。


○地域の句会の方々との交流を通し、俳句作りの楽しさを味わわせる。

【4】学習環境の工夫

○学校図書館や区市町村立図書館から、俳句に関する本や「子ども歳時記」などをそろえて、子供たちが教室で、手に取りやすいようにする。また、朝の会などで「今日の一句」を紹介して音読したり、掲示をしたりする。

(5) 単元計画 (6時間扱い) (検証授業の本時 2/6)

次	時	学習活動	指導事項	☆手だて ■評価規準 (評価方法)
1	1	<p style="text-align: center;">○○○ (はいく) であそぼう</p> <p>1 「季語さがしクイズ」「俳句穴うめクイズ」「カメラでしゅんかんクイズ」などの俳句クイズで「俳句」の特徴に気付いたり、音読をしたりする。</p> <p>2 初めて「俳句」を知り、今日の学習を振り返っての一言感想を書く。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、今後の学習の見通しをもつ。</p>	<p>・易しい文語調の俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。</p> <p>⇨仮説の検証</p>	<p>☆季語クイズでは、「季語」について、「俳句穴うめクイズ」では、「五・七・五」のリズムについて気付かせる。</p> <p>☆「カメラでクイズ」では身近な地域である地域の写真を提示し、情景や作者の思いを考えさせる。</p> <p>■リズムや文語調の響きを感じとりながら、俳句を読もうとしている。</p> <p>(観察、一言感想)</p>
	本時	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">俳句を読んで、作者の思いを感じとろう</p> <p>2 身近な地域を詠んだ俳句や、児童が作った俳句など三つの俳句を音読する。</p> <p>○石神井の 木々のはっぱも 衣がえ (中田 南) ※担任筆名</p> <p>○店先で みかんがころっと 笑ってる (児童作品)</p> <p>○青蛙 おのれもペンキ ぬりたてか (芥川 龍之介)</p>	<p>・俳句を読んで優れた表現や文語調の言葉に目を向けて、作者の気持ちや情景を思い浮かべながら読むこと。</p>	<p>☆俳句について理解したことを振り返り、「俳句名人になろう」という学習単元の目標を意識させる。</p>  <p>☆教師の範読に続けて音読させる。</p>

2	<p>3 三つの俳句から読み取った情景や作者の気持ちについて想像したことを、サイドラインや吹き出しに書く。</p>  <p>4 俳句から感じたことや考えたことを、グループの友達と交流する。</p> <p>5 自分の考えや友達と交流した感想をクラス全体に発表し、俳句のよさについて知る。</p> <p>6 学習を振り返って一言感想を書く。</p> <p>7 次時の学習活動の見通しをもつ。</p>	<p>・俳句を読んで感想等を発表し合い、互いの感じ方や考え方の違いに気付くこと。</p> <p>⇨仮説の検証</p> <p>⇨仮説の検証</p>	<p>☆三つの俳句が書かれたワークシートを用意し、考えたことや感じたことを書き込めるスペースを十分空けておく。</p> <p>☆4～5人のグループでの交流と全体での交流を行い、三つの俳句について、自分が考えたこと、感じたことを発表する。</p> <p>■俳句を読んで感想等を発表し合い、互いの感じ方や考え方の違いに気付いている。(ワークシート、発表、観察)</p> <p>☆全体での児童の発言の中から、俳句のよさについて、以下のような観点にまとめていく。</p> <p>○言葉のおもしろさ</p> <p>○五・七・五のリズム ○共通体験</p> <p>○作者の思い ○まわりの様子、風景</p>
3	<p>3</p> <p>・</p> <p>4</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">俳句を作って楽しもう</div>	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 句会の方々にアドバイスをもらいながら、身近な地域(石神井公園)を散策し、俳句を作ってみる。</p> <p>3 今日の学習を振り返っての一言感想を書く。</p> <p>4 次時の学習活動の見通しをもつ。</p> <p>・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p> <p>☆グループに分かれて、句会の方々と一緒に、身近な地域(石神井公園)を散策し、今の季節に見合う景色や動植物などを題材にし、俳句を作ってみる。</p> <p>☆前時で学んだ俳句のよさについて振り返りながら、俳句を作らせる。</p> <p>■言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。</p> <p>(俳句カード、観察)</p>
3	<p>5</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「4年1組俳句発表会」を開こう</div>	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 友達が作った俳句を音読する。</p> <p>3 友達が作った俳句について自分が感じたことを「ナイスカード」に記入し、友達と交流する。</p> <p>4 今日の学習を振り返っての一言感想を書く。</p> <p>5 次時の学習活動の見通しをもつ。</p> <p>⇨仮説の検証</p> <p>・俳句を読んで考えたことを発表し合い、互いの感じ方や考え方の違いに気付くこと。</p> <p>☆作った俳句は名前を伏せて、番号をつけておく。全員の俳句が書かれたワークシートを用意する。</p> <p>☆友達の俳句のよさについて感じたことを書かせる。</p> <p>■友達の俳句を読んで、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ったりしながら友達の俳句のよさに気付いている。</p> <p>(発表・カード)</p>

6	1 前時の学習を振り返る。		
	名句を読んで、俳句名人になろう		
	2 俳句や俳人に関する本のブックトークを聞く。 3 松尾芭蕉や小林一茶などの名句に触れ、情景を思い浮かべたり、リズムを感じたりしながら音読する。 4 ブックトークで紹介してもらった俳句の本を読む。 5 学習の振り返りをする。	⇨仮説の検証 ・易しい文語調の俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。	☆学校図書館支援員に俳人に関する本や俳句絵本などのブックトークをしてもらう。一人に1冊以上の本をそろえておく。 ■優れた表現や文語調の言葉に目を向けて、作者の気持ちや情景を思い浮かべながら読んでいる。(観察) ☆学習のめあてを振り返り、これからも俳句に親しんでいこうとする意欲につなげる。

(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だてについて)

	成果	課題
教材の選定	○初めに、地域に縁のある俳句や、小学生が作った七つの俳句に出会わせることで、情景が思い浮かびやすく、作者の思いを想像することができた。	・地域に縁のある俳人や俳句が児童の発達段階に合っていない場合がある。必要に応じて創作する必要がある。
学習過程の工夫	○導入の第1次で楽しく俳句に出会わせてことで、児童が俳句に興味・関心を持ち、「他の俳句を調べてみたい。」 「自分でも俳句を作ってみたい。」という第2次の学習に意欲的に取り組むことができた。 ○第1次で「俳句名人になろう」という単元の目標を示し、俳句を楽しく音読したり俳句作りをしたりしたあと、文語調の名句に出会わせてことで、無理なく俳句を読み深めることができた。	・第1次の第1・2時で取り上げる俳句の数は、学年や学級の実態に合わせて配慮する必要がある。 ・児童の興味・関心を持続させられる学習過程を考える必要がある。
学習活動の工夫	○導入の第1次で、クイズ形式で俳句を取り上げたことは、児童の俳句への抵抗感を和らげるのに適していた。 ○俳句を読んで、自分が感じたことや思ったことを交流する活動を通して、自分とは違う友達の考えを知ったり、自分の考えをさらに深めたりすることができた。 ○俳句作りの際に、地域の人材を活用し、児童が作った俳句をほめてもらったり、俳句作りのお手本を示してもらったりすることで、楽しく創作活動にはげむことができた。	・グループでの交流の際に、交流の視点を明確に示す必要がある。 ・地域の人材と連携した学習活動を計画する際には、学習のねらいと、児童の実態をよく理解してもらう必要がある。 ・自分の考えや感想をもつ活動の前に季語や難語句については全体で確認しておく必要がある。
学習環境の工夫	○児童が読みやすい俳句の絵本などを教室にそろえることで、いろいろな俳句に触れることができた。 ○朝の会などで、俳句を発表したり、掲示したりすることで、児童が俳句に興味・関心をもつことができた。	・教師が内容をよく吟味して、児童が読みやすい俳句の本を選書する必要がある。 ・児童の興味・関心が継続できるよう、本の紹介等も適時行うことが望ましい。

高学年分科会

1 分科会研究主題

「古典に進んで親しむ児童の育成」

2 分科会仮説

＜言葉のリズムを実感し、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる教材とその出会わせ方を工夫し、自ら興味・関心をもった言葉を選び、自分の思いや考えを伝える言語活動を設定すれば、古典に進んで親しむ児童が育つであろう。＞◎検証→学習指導計画第2・3・4時

3 高学年分科会の実践 第6学年 10月実施

(1) 単元名 「ぼくもわたしも清少納言」

教材 「枕草子」 清少納言

(2) 単元の目標

○「枕草子」の「夏の段」「ものづくし」について、内容の大体を知り、音読する。

○「枕草子」について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・古文の表現の美しさやリズムのよさに気付き、すすんで創作しようとしている。 ・昔の人のものの見方や感じ方を知ろうとしている。	・経験したこと、想像したことを基に、随筆を書いている。 ・表現の効果などについて確かめたり工夫したりしている。	・親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読している。 ・古文について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。 ・時間の経過による言葉の変化に気付いている。

(4) 研究主題に迫るための手だて

【1】教材の選定

＜第1時＞ 「枕草子」(第1段)の「夏の段」

- ・「をかしの文学」とも言われる「枕草子」のテーマを捉えやすいこと。
- ・「をかし」という言葉を通して昔の言葉と今の言葉を比較してその変遷に興味をもてること。
- ・「夜、月、ほたる、雨」など今でも使われている児童にもなじみの深い言葉が使われていること。

＜第3時＞ 「枕草子」「ものづくし」の3作の中の冒頭部分1～2文

※枕草子において「～もの」で表される章段を「ものづくし」という。

- ・児童の生活に根ざした身近な話題が取り上げられ、昔の人のものの見方や考え、感じ方がよく表れており、現在の児童にも共感しやすいこと。
- ・他の作品にも興味を広げやすいこと。

【2】学習過程の工夫

○出会う

平安貴族の生活様式についてクイズ形式で理解を深めることで当時の人の生活に興味をもつようになると考え、第1時を行う前に、当時の人々の生活の様子に関する背景を知るための時間として社会科の時間に導入を行う。

また、第1時の「第1段」では、昔と今の言葉の違いに気付かせ、その違いから児童に「第1段」に興味をもたせる。さらに、第3時の「ものづくり」でも同様な活動を取り入れ、昔の言葉で書かれた言葉でも児童が無理なく読み進められるようにする。

○味わう

第1時の「夏の段」では四季、第3時の「ものづくり」では日常の何気ない出来事が書かれている文章を読む。そこでは、昔の人も今の自分たちとあまり変わらないことに目を向け、似たような価値観をもって生きていることに気付かせ、古文に親しみをもたせるようにする。また、清少納言の文章表現の巧みな点についても考えることで、自分が作品を作る際の創作意欲につなげる。

○表す

枕草子の「冒頭部分」や「ものづくり」から清少納言の効果的な表現の特徴を理解し、昔の人になりきって自分の思いを伝える活動を設定することで、より古典に親しませるようにする。また、自分が清少納言のように随筆を書くことで、昔の人のものの見方や感じ方と現代人のものの見方や感じ方を比べ、古典への興味・関心を深めるようにする。

【3】学習活動の工夫

- 「枕草子」の世界観を味わわせるために、理解を助ける視聴覚補助教材として、教科書会社発行のデジタル教材を活用して、視覚的に理解しやすいようにする。
- 昔の言葉で書かれた文章からその意味を読み取るのは多少の抵抗があるため、その抵抗を和らげるために、クイズ形式の学習活動を多く設定する。
- 児童が「枕草子」の他の随筆にも興味を広げられるように、いくつかの随筆が載っている読み広げシートを使って児童同士の交流が活発になるようにする。
- 児童が書く意欲を高め、交流を活発にするために、題材ごとに色分けをした短冊に昔の言葉を取り入れた自分の作品を書く活動を設定する。また、昔の言葉で創作する抵抗感を和らげるために、「春は～～」「春は、（ ）。（ ）さらなり。（ ）、をかし。」という文の定型を示した短冊を2種類用意する。

【4】学習環境の工夫

- 他の古典に対する興味・関心をもちやすくするために、古文を現代語訳した本やまんがを使って表現された古文の本などを学級に置く。
- 昔の生活様式を知り、古文の読み取りの手助けとなるよう、「枕草子」と関連のある写真を掲示する。
- 自分なりの随筆を書く意欲を高めるために、児童の作品を掲示する。

(5) 学習指導計画（5時間扱い）（検証授業の本時3／5）

次	時	学習活動	指導事項	☆手だて ■評価規準（評価方法）
1	1	1 「をかし」の言葉に出会い、意味を知る。 2 原文「夏は夜」を音読し、清少納	古文について、内容の大体を知り、音読すること。	☆児童の抵抗を和らげるために、教師の範読に続けて音読するように指示する。

		<p>言が捉えた夏のよさを、現代と共通する言葉を手がかりに読み取る。</p> <p>3 映像資料を提示しながら、原文の内容を確かめる。</p> <p>4 「夏」の段について、自分が感じたことを書き、全体で発表する。</p> <p>5 「春」「夏」「秋」「冬」全ての段を音読し、本時の学習を振り返る。</p>	<p>時間の経過による言葉の変化に気付くこと。</p>	<p>■表現の美しさやリズム、情景を味わいながら読んでいる。（観察・発表）</p> <p>☆情景を想像しやすいように、静止画として加工されたデジタル教材の映像を用いる。</p> <p>■親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読している。（観察・発表・ノート）</p>
2		<p>1 「枕草子」「夏は夜」を音読する。</p> <p>2 「枕草子」の文章の特徴について考える。</p> <p>3 「春」の段を取り上げ、全体で短冊の書き方の確認をする。</p> <p>4 自分が感じる春夏秋冬の「枕草子」を短冊に書き、書いた短冊を基にグループで交流する。</p> <p>5 全体で交流し、本時を振り返る。</p>	<p>古文について、内容の大体を知り、音読すること。</p> <p>⇨仮説の検証</p>	<p>☆「各季節のよさが短文中で書かれていること」「体言止めやリズムのよい言い方で表されていること」に着目させる。</p> <p>☆実態に応じて、春夏秋冬毎に色分けした2種類の短冊を用意する。</p> <p>「春は～～」「春は、（ ）。（ ）さらなり。（ ）、をかし。」</p> <p>■経験したこと、想像したことなどを基に、随筆を書いている。（短冊）</p>
2	3 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日常生活における清少納言のものの見方や感じ方を探ろう</div>		
		<p>1 「うつくし」との言葉について今と昔の意味を考える。</p> <p>2 「うれしきもの」の原文を音読し、内容の大体を想像し、原文と似たような思いを抱いたことがあるか、振り返る。</p> <p>3 「はしたなきもの」の内容を知る。</p> <p>4 3編「ものづくし」の現代語訳が書かれた紙の中から、自分が同じ思いを抱いたものを探し、4人グループで交流する。</p> <p>5 昔と今を比べて感想を書き、全体で交流する。</p>	<p>時間の経過による言葉の変化に気付くこと。</p> <p>昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p> <p>⇨仮説の検証</p>	<p>☆「うつくしもの」を表した写真を掲示した後に原文を掲示する。</p> <p>☆各冒頭部分から1～2文のみを取り扱うようにする。</p> <p>☆今と昔とでは言葉の意味が変わっているものもあることをおさえる。</p> <p>☆「うれしきもの」はふせてクイズのように投げかける。「はしたなきもの」は原文・現代語訳を紹介するだけとする。</p> <p>☆児童が理解できるような表現で書いた読み広げシートを色別に3種類用意する。</p> <p>☆口頭で原文と似たような体験を踏まえて感想を発表し合うように指示する。</p> <p>■「枕草子」について、清少納言のものの見方や感じ方を理解している。（発表・ノート）</p>
4		<p>1 3編の「ものづくし」を音読する。</p> <p>2 「ものづくし」の段の文章の特徴について考え、全体で書き方の確認</p>	<p>短冊を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合</p>	<p>☆「清少納言の思いが短文中で書かれていること」「体言止めやリズムのよい言い方で表されていること」に、着目させる。</p>



		<p>をする。</p> <p>3 自分が感じる枕草子「○○なもの」を短冊に書く。</p> <p>4 書いた短冊をもとにグループで交流した後、全体で交流する。</p> <p>5 本時を振り返る。</p>	<p>うこと。</p> <p>⇨仮説の検証</p> <p>古文について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること</p>	<p>☆一文を短く、リズムよく書くように声かけをする。</p> <p>■経験したこと、想像したことなどを基に、随筆を書いている。(短冊)</p> <p>☆他の児童の作品は、後日の掲示によって、見合えるようにする。</p>
3	5	<p>1 他の古典作品を知り、古典への関心を高める。</p> <p>2 既習の「枕草子」の段を振り返り、音読する。</p> <p>3 現代語訳「枕草子」の他の段を読み、自分の気に入った段を見付け、理由をノートに書く。</p> <p>4 全体で自分の気に入った段と理由を発表する。</p>	<p>古文について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること</p>	<p>☆今まで取り上げてきた段を振り返ることができるよう、壁面にある掲示物を参考にする。</p> <p>☆読み深めることができるように、選定した現代語訳の段を用意する。</p> <p>■古典作品の表現の美しさやリズム、情景を味わいながら読んでいる。(観察・発表)</p> <p>☆他の古典作品の紹介文を用意する。</p>

(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だて)

	成果	課題
教材の選定	<p>○一文が短く、定型のリズムが繰り返されているため、児童にとって抵抗なく取り組めたことから、「冒頭部分」は、音読や創作教材として有効であった。</p> <p>○日常生活の身近な話題が取り上げられているため、昔の人のものの見方・感じ方を現在の児童にも共感しやすかったことから、「～もの」で表される章段は有効であった。</p>	<p>・古典教材は他にも多数ある。どの教材が児童にとって適しているか、比較・検証していく必要がある。</p>
学習課程の工夫	<p>○昔と今の言葉の共通点や相違点に着目させた活動を取り入れたことにより、児童が昔の言葉に興味・関心をもったことから、「原文と出会う→それを基に創作する」という展開は、有効であった。</p>	<p>・意欲を持続させるためには、あらかじめ、学習活動のゴールを示す必要がある。</p>
学習活動の工夫	<p>○児童にとって経験のない世界を視覚的に捉えられ、内容を理解するのに役立ったことから、古文への抵抗を和らげることにデジタル教材を活用したことは有効であった。</p> <p>○児童が興味・関心に合わせて選択したり、自分の思いや考えを伝える交流が互いの見方を広げたりしたことから、色分けした読み広げシートや短冊は有効であった。</p> <p>○「冒頭部分」は定型にあてはめやすいため創作活動に適している。</p>	<p>・内容の大体を読み取るのに時間がかかる場合がある。児童に与える適切な量については吟味が必要である。</p> <p>・「～もの」で表される章段は、定型の型にあてはめにくいところがあり、創作活動には難しい面がある。</p>
学習環境の工夫	<p>○小学生向きの古典の本に触れさせる場を設定することで、古典に関する本を自ら選ぶ児童が現れたことから、平易な本を複数用意することは、古典に興味・関心をもたせることに、有効であった。</p>	<p>・小学生向きの古典関係の本を複数用意するために、地域の図書館との連携が必要である。</p>

各分科会の仮説検証授業の方策

低学年	児童にとって面白さのある昔話を選定し、興味深い出会いを工夫した。学習過程の終末に「お話し会」の学習を設定し、学習に見通しをもたせた。
中学年	児童にとって情景や作者の思いを想像しやすい俳句を選定し、楽しい出会いを工夫した。想像したことを交流しながら読み味わう学習・地域人材を生かした創作活動を設定し、文語調の俳句に段階的に触れさせた。
高学年	リズムを感じやすい古典や児童にとって内容が理解しやすい古典を選定し、言葉に着目する出会いを工夫した。今と比べる中で創作したり交流したりする学習を設定し、昔の人の感じ方やものの見方を考えさせた。

V 研究の成果と課題

【成果】

- ・単元のねらいや教材の特性、児童の発達段階に応じて教材を分析し、無理のない範囲で適切な教材を選定することが、児童の興味・関心の向上につながった。
- ・読み聞かせやクイズ、映像資料の活用など、教材との出会いを工夫したことで、独特の言い回しや文語が使われている教材や、初めて触れる古典の教材でも、児童が興味・関心をもって読んだり、無理なく学習したりする姿が見られた。
- ・単元の中で中心となる学習活動を明確にして学習を進めたことが、学習に対する意欲の持続につながった。また、友達や地域の人材との感想の交流、読み広げる読書などの言語活動に、相手意識や目的意識をもって取り組むことにつながった。
- ・学習環境を整備し、読み広げるための本を精選して教室に紹介したことで、授業を通して興味・関心の高まった児童が、「続きを読みたい」「他の作品も見てみたい」と自ら本を読む機会が増え、児童の進んで読もうとする姿が数多く見られた。
- ・今まで触れてはいても昔話のおもしろさをあまり感じていなかった児童、短歌や俳句、ことわざや慣用句、古典と聞いてすぐに思い浮かばなかった児童が、魅力的な教材との出会いや面白さに気付くことのできる言語活動や様々な作品に触れられる読書活動等を通して、「伝統的な言語文化」への理解を深め、身近に感じるようになることが確かめられた。

【課題】

- ・古典をはじめ、日本の「伝統的な言語文化」の教材は膨大な数に上るため、教材の分析、選定に多くの時間を費やした。そのため、神話や伝承、ことわざや慣用句など、研究で検証できなかった内容があった。教材を授業で効果的に扱うためには、更に継続して教材研究を進める必要がある。
- ・「伝統的な言語文化」の教材では、児童の言語生活において慣れない言葉を扱うことがあり、作品の内容の大体を読み取るのに思った以上に時間がかかる場合があった。そこで、児童の実態に応じて、教材の内容の選定や児童に与える適切な量については、吟味が必要である。
- ・読書活動との関連を考えると、児童がすぐに読む機会が得られるように、種類を数多くそろえたり、同じ本を複数そろえたりすることが重要だが、学校図書館に必要な本が整備されていない場合があった。そこで、学校間や地域の図書館との連携を強化し、計画的に関連図書を整備していく必要がある。
- ・低・中・高学年の系統的なつながり、中学、高校との関連については、あまり詳細には研究を進められなかった。また、今回の研究で、「伝統的な言語文化」への興味・関心の高まりは見られたが、それを児童に育ませるべき生涯にわたって親しんでいく態度へどのようにつなげていくか、今後も継続して検証していく必要がある。

平成22年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 国 語

地区	学 校 名	職名	氏名
港区	青南小学校	主任教諭	恩地 澄子
文京区	汐見小学校	主任教諭	西田 佳子
江東区	明治小学校	主任教諭	吉田 佳代
江東区	第一大島小学校	教 諭	平形 裕司
目黒区	緑ヶ丘小学校	教 諭	竹田 あい
中野区	啓明小学校	主任教諭	○山田 隼土
荒川区	大門小学校	主任教諭	松波 智恵
練馬区	光が丘秋の陽小学校	主任教諭	◎土方 大輔
練馬区	南田中小学校	主任教諭	永村 真理
足立区	長門小学校	主任教諭	白枝 奈実
町田市	鶴川第二小学校	主任教諭	井元 章二
小平市	小平第四小学校	教 諭	竹内 英輔

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事 鈴木 孝子

平成 22 年度
教育研究員研究報告書

小学校 国 語

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451